

# 奈良県立医科大学 学報



平成21年度 卒業式

April  
2010

vol. 32

## CONTENTS

卒業式学長式辞	1~2
卒業式・大学院修了式／学長賞・厳糧賞・華檀賞 ／大学院博士課程研究奨励賞	3
退任挨拶／名誉教授称号授与	4~5
役員、経営審議会、教育研究審議会名簿	6
国試結果／学位授与／入試結果	7
部局長就任挨拶	8~9
平成22年度予算について	10~11
先端研だより／中島賞受賞者決定／住居医学研究会	12
寄附講座(血圧制御学)の開設	13
産学官連携だより	14~15
学会等における論文賞の受賞について	15
看護部長就任あいさつ	16
／病院機能評価決定取得に向けて	16~17
診療報酬の改定について	18~19
社会人入学制度について	20
看護部から／チェンマイ大学との交換留学	21
院内一次救命処置講習会	22
活躍する認定看護師たち	23
看護学科卒業研究発表会／公開講座開催報告 ／厳糧会館にて学会開催	24
レポート	25
英会話ラウンジ／おくやみ／下ツ道／広告	26

## 卒業式式辞

学長 吉岡 章

医学部医学科第55期生97名、看護学科第3期生91名の諸君、卒業おめでとう。奈良県立医科大学の教職員を代表して心からお祝いを申します。

無事この日を迎えられたのは、諸君のたゆまぬ勉学と身心の練磨、そして何よりも夢に向かったの飽くなき向上心が功を奏したものと大変うれしく思います。加えて、厳しく、かつ、温かく見守り続けてくださった教授・教官・職員の方々、さらに愛情に満ちた応援を惜しみなかったご両親・ご家族や友人のお蔭であることも忘れないでください。

医学科卒業生諸君は、いよいよ臨床研修が始まります。本学附属病院を中心としたプログラムを選んだ人と学外・県外のプログラムを選択した人が相半ばしましたが、私共奈良医大のスタッフはもっと多くの諸君に大学や関連病院で医師として最初の2年間を研修して欲しかったというのが正直な気持ちです。

一方、看護学科の場合は、全卒業生の約40%が本学附属病院に就職します。諸君の自覚が高まって一昨年の第1期生の13%に比べると、年々増えていることは喜ばしいことですが、私共はまだまだ納得していません。

諸君は今日学業を終えて明日から社会に一步踏み出すわけです。諸君が国家試験を経て取得する医師・看護師というタイトル・職業は単なる専門職ではなく、単なる技術職でもありません。あなた方が向き合うのは深刻な病気や苦しみそして悩みを持つ、あるいは健康が冒され、死と直面している生身のヒト、人間そのものであり、その家族であり、その人達が生活するこの複雑な社会なのです。毎日毎日、自らが自らを高める克己心と向上心を持たずして医師や看護師といった重い社会的要請に応えることは出来ません。

2月にはカナダのバンクーバーで冬季オリンピックが開催され、世界中のアスリートが鍛え上げた技と魂をぶつけ合いました。日本人選手も大いに活躍しました。私もTV観戦で感動したり、一喜一憂しました。

その中で、スノーボードの國母和宏選手の服装や記者会見の言動に批判が集まりました。諸君はどのように感じ、考えたでしょうか？

色々な見方や考え方がありました。概ね否定的、批判的な意見が多い中で、案の定それらを「日本人の不寛容さ」のせいにしてしようとする一部の論調もありました。私はオリンピック選手は全員、国を代表し、国民の税金の支援を受けて参加しているのですから、胸に選手団のあの日の丸のついた制服をきちんと着ることは当然であると思います。國母選手に正しい指導をしなかった監督やコーチ、注意をしなかった先輩や同僚に責任の一端があると思います。

医師・看護師も白衣という制服を着ます。白衣には機能美がある上、信頼のシンボルでもあります。医師・看護師は患者さんや家族からの全幅の信頼を一身に背負い、この制服を着て立ち向かうのです。身も心も引き締めて対応するのですから、その時、白衣が不潔であったり、だらしない着方で良いわけがありません。

もし、そのような白衣姿や言動があれば、奈良医大では周囲の同僚や仲間、そして先輩や指導医や教授は黙っているはずがありません。必ず適切な助言や指導があるはずだと私は信じています。

私はもっと多くの卒業生諸君が母校である本学に残って研修してほしいと申しました。それは単に本学附属病院が臨床研修病院として我が国屈指の病院だからとすすめているだけではありません。奈良医大という医療の現場で先輩と後輩が直接向き合い、チームを形成し、共働する中で、先輩医師・看護師が後輩諸君と真剣に誠実にその持てる技と心を直伝することが出来る大学病院であると申しているのです。

私達は医療こそが手から手へ人から人へ丁寧に伝えることで、初めて良い医療人が育ち、薬や機器が生まれ、さらに新しい医療技術やシステムが開発されるものと確信しています。

どうか諸君、明日からはロールモデルとしての先輩から多くを学んでください。そして患者さんお一人お一人の人生に思いを馳せることの出来るドクターやナースを目指して精進してください。

諸君の前途洋々たらんことを信じ、幸多かれと祈ります。

## 新たな旅立ち

### ～医学部卒業式 平成22年3月16日、大学院修了式 平成22年3月17日～

今年も211名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。

(211名：医学科97名、看護学科91名、大学院博士課程20名、同修士課程3名)

また、式の中で、次の三つの賞の受賞者が発表されました。(敬称略)

#### ◆奈良県立医科大学学長賞

医学科6年間または看護学科4年間の課程で最も優秀な成績を修めた者



医学科：田口 智之<sup>たぐち ともゆき</sup>

学長賞というたいへんすばらしい賞をいただき、光栄に存じます。

受賞にあたって、本学での来し方を振り返ってみました。書籍などで勉強することはもちろん必要なことではありますが、それ以外に「環境」が大きな要因であったと、今あらためて感じています。

私は、同級生たちと、一人では思いつかないような疑問をぶつけ合い、相談し合い、ともに考える機会をいつも得ることができました。それで解決できないときは、快くご指導くださった先生方がい

らっしゃいました。

6年間お世話になりました先生方、苦楽をともにした同級生や後輩たち、そして29年間支え続けてくれた家族に心から感謝します。

今後、医師として患者さんと向き合っていくなか、人と人のつながりに支えられた大きな輪の一員として日々精進してまいります。



看護学科：宇佐見 祐未<sup>うさみ ゆみ</sup>

壇上で吉岡学長から賞状をいただいたとき、奈良医大で過ごした4年間の思い出が鮮やかによみがえり、思わず涙があふれてきました。手厚くご指導してくださった先生方や実習指導者の方々。学生生活をサポートしてくださった大学職員の方々。机上では学べない多くのことを教えていただいた患者さまをはじめ看護の対象者の方々。そして、悩みくじけそうになる度に支え励ましてくれた仲間たちと、いつもあたたかく見守り全力で応援してくれた家族。多くの人を支えたいと思い入学したあの

日からは想像もできませんでしたが、この4年間で自分は多くの人に支えられていることに気づけました。皆さまに心から感謝申し上げます。

駆け抜けた日々や、培った多くの方とのつながりは、きっとこれから先の私を支えてくれることでしょう。感謝の気持ちと初心を忘れずに、この賞に相応しい看護職者となれるよう、これからも努力してまいりたいと思います。

#### ◆<sup>いつ かししょう</sup>医学科同窓会<sup>はな かししょう</sup>厳樞賞、看護学科同窓会華樞賞

- ①クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者(ヒーローオブザクラス)
- ②ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
- ③クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

厳樞賞：①②左近 郁絵<sup>さこん いくえ</sup> ②田口 智之<sup>たぐち ともゆき</sup> ③西川 大祐<sup>しかわ だいすけ</sup>

華樞賞：① 塚田 桃代<sup>つかだ ももよ</sup> ②宇佐見 祐未<sup>うさみ ゆみ</sup> ③本田 佳奈<sup>ほんた かな</sup>

#### ◆奈良県立医科大学大学院博士課程研究奨励賞

甲学位論文申請者のうち、最も優れた論文の申請者



尾上 健児<sup>おのうえ けんじ</sup>

多数の応募者の中から、この名誉ある賞に選出いただき光栄に存じます。

受賞研究は近年臨床上に大きな問題である心血管病と腎機能障害との関わり「心腎連関」に関するものです。

本学附属病院来院患者さんを対象にした臨床研究を基に、総合研究棟で基礎実験を行い、心腎連関の分子メカニズムに関わる一因子を解明し、さらには新たな治療戦略を提唱することができました。

これらの背景には、本学附属病院が地域から信頼されていること、総合研究棟の設備が最先端の研究に耐えることなどが挙げられ、吉岡学長をはじめ多くの皆様方に深く感謝申し上げます。

本学は附属病院をもち、日常診療の問題点を基礎研究により解明し得るといふ、医学の進歩には不可欠の利点を有しています。これを生かし、今後も奈良から世界へと情報発信し、微力ながら医学の発展に貢献していきたいと思ひます。



# 退任あいさつ

dum spiro,spero.

哲学教室 教授 豊田 剛



(右から2人目が豊田先生)

平成4年4月、縁あって奈良医大に赴任した時、教授の中では最年少でした。最初は何もわからず右往左往するばかりでしたが、それから18年、長いようで過ぎてしまえばアツという間であったようにも感じられます。今、最年長として大学を去るにあたり、楽しかったこと、印象深い出来事、いやなことその他様々なことが脳裏を去来し、誠に感慨深いものがあります。またこの大学でなければ出会えなかったようなユニークな人間類型を知ることができ、いい「人間学」の勉強になりました。ただ、教育、研究、入試を含む学内業務等、いずれをとっても十分なことができたとはいいがたく、力が足らなかったことを申し訳なく思っています。にもかかわらず、なんとか無事定年までこぎつけることができたのも、多くの皆様方に支えていただいたおかげであると心より感謝しております。

着任当初はこの大学ののんびりとしたおらかな雰囲気に関心、また大いに魅力を感じましたが、世の中がだんだん世知辛くなるにつれ、大学からもその「良さ」が失われていったようで残念です。組織にとって一番大事なことは、風通しがよく、「正しいこと」が通る体制であることです。権謀術数による力関係が幅をきかすようでは、その組織の将来は期待できません。構成員の志気が萎えたりすることのないよう、大学全体が活性化され、益々発展しますことを心より祈念しております。 Festina lente!

## 定年退任の最終講義に思う。

生物学教室 教授 大西 武雄



昭和49年12月1日に奈良医大に赴任し、それから実に35年余の勤務となった。大学院時代の恩師野津敬一先生についてきた。翌4月から生物学の講義と一人での学生実習に明け暮れた。学生実習の補講である学生がポケットの中に持っていた抗菌剤バンフラントローチが突然変異を誘発することを偶然発見した。それが、やがて発がん剤であることと共同研究で実証し、製造されなくなったことが小生のがん研究のスタートとなった。がん学会でも大きな評判を得て華やかなデビューとなり、その後、切れ目ない多くの研究費にもささえられ順調な研究・教育生活に没頭することができた。赴任直後から幸運に恵まれた人生であった。その幸運は途切れることなく、つぎつぎ新しい発見へと続いていった。多くの学生・院生がたむろし、いつも深夜まで楽しい研究・教育生活を送った。多くの新発見に酔いしれ、論文のリプリントがとどいた夜の陶酔した満足感はいまだにつづいている。実験責任者としての宇宙実験も10回も数えた。これまで参加してきた多くの学会の責任者になってしまった。本学での授業では休講することもなく、いつも楽しんで行った。

昨日、2月8日ついに最終講義を行った。どの学生もが授業に注目してくれ、質問や討論もし、授業の盛り上がりにも成功した。なんと小気味のよいことか、しかしこれですべて終わってしまう。授業とは小生にとって何であったのであろうか。小生の自己満足であったのであろうか。彼らの記憶の中にとどめることができたのであろうか。

(大西先生には4月1日付けで放射線腫瘍医学講座の特任教授にご就任いただきました。)

## 退任にあたり

眼科学 教授 原 嘉昭



奈良医大卒業後すぐに眼科学教室に入局し、神谷貞義教授、中尾圭一教授、そして西信元嗣教授にご指導をいただきました。特に西信教授には臨床研究への取り組み方、教室の運営など大変お世話になりました。眼科学教室は自由で明るく、教室員全員に親しみがあり、本当に雰囲気のよい教室で学ばせていただきました。徹夜で発表を準備し学会に出席したこと、締め切りに追われ学位論文を仕上げたこと、また思わぬ結果になった患者さんのことなど悩み、苦しんだこともありましたが、今は楽しかったことばかりが数々浮かんできます。私は主として人工硝子体、調節力のある人工水晶体の研究を産業総合研究所、九州大学またHOYA株式会社と共同で行ってきましたが、その中でこれからの研究は産学官の共同で行わなければ目標を達成できないのではないかと実感しております。臨床では眼科手術を相当行わせていただき、現在奈良医大眼科では眼科手術として行えないものはないと言える状態になっております。眼科は診療器具、手術機器が日進月歩で発展していくものですが、これらを時代に遅れることなくそろえていくことができた。大学当局、また奈良医大眼科同窓会のご支援、教室員の努力によりこれらの高価な機器を臨床で使用できるようになっていることを感謝しております。最後に多くの方々に支えられ無事に退官できましたことをありがたくお祝い、奈良医大およびその中で眼科学教室がますます発展することを期待しております。

ができました。大学当局、また奈良医大眼科同窓会のご支援、教室員の努力によりこれらの高価な機器を臨床で使用できるようになっていることを感謝しております。最後に多くの方々に支えられ無事に退官できましたことをありがたくお祝い、奈良医大およびその中で眼科学教室がますます発展することを期待しております。

### 3人が名誉教授に

平成22年4月1日付けで3人の先生に名誉教授の称号が授与されました。

○豊田 剛教授 (哲学) ○大西 武雄教授 (生物学) ○原 嘉昭教授 (眼科学)

# 退任あいさつ

## 退任にあたり

教育開発センター 教授 森田 孝夫



平成16年4月に教育開発センターの教授として着任し、本学のカリキュラム改革を担当させていただきました。多くの方々のご支援を頂き、無事に6年間の任期をまっとうできたことを、心から感謝しております。着任した当時は共用試験の本格実施、卒後新臨床研修制度の開始など医学教育制度が大きく変わる時期で、各大学とも対応に追われていました。本学では、平成18年度から「MDプログラム奈良2006」がスタートし、6年一貫教育、成人教育学に基づいた医学教育、地域に基盤を置いた教育を3本柱に「医学特別実習」、「基礎医学アドバンスコース」、「コンソーシアム」、「チーム基盤型学習」など新しいプログラムが開始されました。また、第4学年末に余裕を持って共用試験を実施し、診療参加型臨床実習に臨めるようにカリキュラムの枠組みを変更しました。平成20年度には「質の高い教育GP」が採択され、クリニックを実習の場とする「メンター制度」が開始されました。平成22年度からは6年一貫の「地域基盤型医療教育コース」がスタートします。

本学は国庫から助成金を受けていない公立大学ですので、国の政策や教育のトレンドに左右されることなく、純粋に医学、医療のあり方を考えて医学教育を実践していくことが可能です。奈良の伝統・文化をもとに奈良医大らしい独自の教育システムを確立していただきたいと思います。

本学の益々の発展を祈念しております。

## 退任あいさつ

老年看護学 教授 守本 とも子



私が奈良県立医科大学医学部看護学科に就任してもう6年になります。

この6年間、本当にいろいろなことを体験させていただきました。

特に看護教育部長に就任させていただいた間には、大学院設置にむけての検討、大学機関別認証評価を受審するなどの重要な課題があり、ストレスの多かった時期でもあったと思います。でも、一方で、大学の将来を考えるとという充実した日々でもありました。教員の方々だけでなく、事務職の方を含め、大学が丸丸となって目標に取り組むという時期をともに過ごさせていただいたことは、私にとって本当に良い思い出です。

これまでの皆様のご支援、ご指導に深く感謝いたしますとともに、今後の本学の発展を心より、お祈りいたします。

## 退任あいさつ

看護部長・精神看護学 教授 佐伯 恵子



奈良は仏さまに出会える場であり、安らぎの場という印象がありましたので、就職が決まった時は、ゆったりした思いで教育・研究ができると思っていました。ところが、2年目に附属病院の看護部長を兼務することになりました。夜間救急で母親を救ってくれた医療現場に貢献出来ることがあるならば……という思いで引き受けることにしました。ところが、臨床から長い間離れていた私は、毎日がカルチャーショックでした。対策として、毎朝、管理当直師長からの申し送りを副部長全員で聞く体制にしてもらいました。また、8人体制になった副部長との会議を毎週開催することにしました。昇格人事も異動も研修の公募も予算作成も、師長会に提案する内容はすべてこの会議で検討しました。この背景には、部長としての決断に不安があったからですが、副部長会議を経て決断した後でも、揺らぎが生じて翻したりしました。スタッフにはご迷惑をいっぱいかけましたが、基本的に臨床のスタッフたちは温かかったです。それは、かけがえのないのちに向き合うことにコミットしている臨床家であるからだと感じています。このことは、看護スタッフだけではなく、病院で働く医師や事務職員にも感じることです。

強靱な身体と精神が不足しているために、2年間で退任することになりましたが、この体験はほかでは得られないと実感しています。かかわった皆様、ありがとうございました。

## 役員、経営審議会、教育研究審議会名簿

(総務課)

役員名簿、経営審議会及び教育研究審議会委員名簿は次のとおりです。

なお、法人の情報はホームページ (<http://www.narmed-u.ac.jp/~aff/johokoukai/>) で公開しています。

### 【役員名簿】

職名	氏名	備考
理事長	吉岡 章	学長
副理事長	西尾 哲夫	
理事	喜多 英二	教育研究担当・医学部長
//	榊 壽右	医療担当・附属病院長
//	米田 隆史	総務経営担当
監事	伊藤 一博	公認会計士
//	瓜生 英明	

瓜生 英明氏(前理事)には、主として業務執行状況や病院経営などについての監査指導をしていただくために、今年度から常任監事に就任いただきました。

### 【経営審議会委員名簿】

職名	氏名	備考
理事長	吉岡 章	学長
副理事長	西尾 哲夫	
理事	喜多 英二	教育研究担当・医学部長
//	榊 壽右	医療担当・附属病院長
//	米田 隆史	総務経営担当
学外委員	相田 俊夫	倉敷中央病院副理事長
//	大手 信重	前奈良県医師会副会長
//	川副 浩平	聖路加国際病院ハートセンターセンター長
//	徳永 力雄	関西医科大学常務理事 (同大学名誉教授)
//	西村 周三	京都大学理事
//	山岡 義生	財団法人日本バプテスト連盟医療団 理事・顧問

### 【教育研究審議会委員名簿】

職名	氏名	備考
学長	吉岡 章	
副理事長	西尾 哲夫	
副学長	喜多 英二	教育研究担当・医学部長
//	榊 壽右	医療担当・附属病院長
教育研究上の重要な組織の長	平尾 佳彦	附属図書館長
//	小西 登	研究部長
//	飯田 順三	看護学科長
//	大崎 茂芳	一般教育部長
//	羽竹 勝彦	基礎教育部長
//	古家 仁	臨床教育部長
//	脇田満里子	看護教育部長
学外委員	池田 康夫	早稲田大学教授

(敬称略)

## 国 家 試 験 結 果

3月29日、厚生労働省から第104回医師国家試験（2月13～15日実施）の合格者が発表されました。今回の試験結果は下表のとおりです。

第104回医師国家試験

本学医学部医学科			
区分	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
新卒	97	96	99.0
既卒	6	2	33.3
計	103	98	95.1

平均合格率			
全国	国立	公立	私立
92.8	94.0	95.3	91.1
51.8	53.7	65.8	47.0
89.2	90.8	93.6	86.7

看護師（2月21日実施）、助産師（2月18日実施）、保健師（2月19日実施）国家試験の合格者が3月26日に発表されました。試験結果は下表のとおりです。

第99回看護師国家試験・第93回助産師国家試験・第96回保健師国家試験

本学医学部看護学科			
区分	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
看護師(新卒)	78	76	97.4
(既卒)	0	0	—
計	78	76	97.4
助産師(新卒)	13	12	92.3
(既卒)	0	0	—
計	13	12	92.3
保健師(新卒)	91	81	89.0
(既卒)	2	2	100
計	93	83	89.2

平均合格率			
全国	大学	短大	養成所
93.9	97.9	92.3	92.8
46.6	77.8	55.1	95.4
89.5	97.4	88.0	55.3
83.2	81.5	79.5	85.8
40.0	66.7	0.0	0.0
83.1	81.5	78.5	85.8
87.8	87.9	88.6	85.6
39.9	42.4	9.1	26.7
36.6	86.8	85.8	82.9

## 平成21年度 学位授与の状況

次の35名に博士（医学）の学位が授与されました。（甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。）

**本審査日 平成21年 5月12日(火) 6名**  
 (甲) 山本 百合 侵襲制御・生体管理医学  
 野中 純一 脳神経機能制御医学  
 (乙) 飯田 淳一 脳神経外科学  
 梶原 淳久 口腔外科学  
 加藤 晴登 麻酔科学  
 佐々岡 紀之 麻酔科学

坂本 尚美 消化器・総合外科学  
 吉井 稔章 眼科学  
 丸上 永晃 放射線医学

**本審査日 平成21年 7月14日(火) 7名**  
 (甲) 竹本 康宏 循環器・腎臓病態制御医学  
 熊本 牧子 呼吸器病態制御医学  
 松山 友美 血液・血流機能再建医学  
 (乙) 北澤 利幸 内科学Ⅲ  
 中村 達也 救急医学  
 加藤 誠司 輸血部  
 鳥海 勇人 脳神経外科学

**本審査日 平成22年 3月 9日(火) 13名**  
 (甲) 尾上 健児 循環器・腎臓病態制御医学  
 鍛冶 孝祐 消化器病態制御医学  
 瓦谷 英人 消化器病態制御医学  
 浅井 宏英 遺伝情報病態学  
 山下 哲範 耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学  
 成川 功一 運動器再建医学  
 (乙) 安田 保喜 細菌学  
 石神 賢一 内科学Ⅰ  
 山内 基雄 内科学Ⅱ  
 中須 麻子 整形外科学  
 田中 雅博 泌尿器科学  
 宇都 文昭 放射線腫瘍医学  
 河野 安宣 麻酔科学

**本審査日 平成21年11月10日(火) 9名**  
 (甲) 志田 泰明 発達・成育医学  
 山口 通雅 循環器・腎臓病態制御医学  
 近藤 夏子 遺伝子・分子動態学  
 三宅 牧人 泌尿器・男性機能制御医学  
 (乙) 玉置 伸二 内科学Ⅱ  
 殿村 恭代 神経内科学

次の3名に修士（医科学）の学位が授与されました。

**本審査日 平成22年 3月 9日(火) 3名**  
 竹下 大輔 生体機能制御機構学  
 服部 宏志 生体機能制御機構学  
 山形 力生 分子動態学

## 平成22年度入試結果

区分		募集人員	志願者数(A)	受験者数	合格者数(B)	追加合格者数(Bの内数)	入学者数	志願倍率(A/B)	前年度倍率
医学科	推薦(緊急医師確保)	13	43	41	13	0	13	3.3	8.6
	推薦(地域枠)	10	87	48	10	0	10	8.7	—
	前期	65	192	169	65	0	65	3.0	4.2
	後期一般	15	186	73	15	0	15	12.4	11.5
	後期地域	10	67	19	10	0	10	6.7	3.3
	小計	113	575	350	113	0	113	5.1	5.7
看護学科	編入学一般	5	38	36	16	9	7	2.4	2.1
	編入学地域	10	10	10	7	0	7	1.4	2.2
	推薦	25	51	51	25	0	25	2.0	2.3
	社会人	5	23	16	6	1	5	3.8	4.4
	前期	40	126	122	41	1	40	3.1	2.7
	後期地域	10	69	40	11	1	10	6.3	6.2
	小計	95	317	275	106	12	94	3.0	2.8
医学部	合計	208	892	625	219	12	207	4.1	4.2



# 部局長就任挨拶

## 医学部長に再任されて

喜多 英二



皆様方のご支援により、もう2年間医学部長を務めさせていただくことになりました。本学は極めて厳しい財政事情におかれておりますが、吉岡理事長指導のもと、多くの改革・新規事業に取り組み、着実に成果を挙げてまいりました。病院においても、各診療科のご努力により、格段なる診療実績の飛躍をとげ、大学運営における財政面での大きな支えになると同時に、地域医療への多大な貢献が達成されました。

現在の財政事情のもとで最も危惧すべきは、医学・看護学研究の発展と専門医療の担い手育成と云う本学の使命達成において、いくつかの計画が実行困難な状況に置かれていることとあります。

医学科では大学院定員充足への取り組みが道半ばであります。看護学科では大学院設置に向けて再スタートしたばかりであります。医学科では定員増に伴う、看護学科では新カリキュラム導入に伴う、それぞれ施設やスタッフ、教育体制の問題など、学部教育の充実も大きな課題であります。両学科とも現行の入試制度で、他学に劣らぬ優秀な学生、医師・看護師に真に適正な学生を確保できているのか、後期日程と合わせて再検討も必要であります。

本学が真の医科大学であるためには、教育・研究部門の充実・発展が不可欠であります。この目的達成には、全ての教職員が個人の砦を守るのではなく、大学全体の利益を第一に優先することが求められます。皆様と協力して、本学の更なる発展に向けて尽力する覚悟であります。ご支援・ご協力をお願いいたします。

## 病院長再任に当たって

榊 壽右



平成22年4月から24年3月までのさらに2年間を附属病院長としての任を受けさせていただくことになりました。本来の制度なら今年の3月末を持って定年となる予定でもありましたので、今回の附属病院長再任を受けるに当たりましては、私自身の晩節を汚すことになるのではないかと、あるいは法人にご迷惑をおかけするのではないかと等と、色々考えるところもありました。しかし、学長から病院運営についてもう少し2人3脚で頑張ってもらいたいとのご希望もいただき、また病院の経営状況が、今なお発展途上にある状況の中で、身を引くことは、多くの方々にもご迷惑をおかけするとも考えました。

A病棟に変わる新病棟の建設について県から新予算に計上されたとも聞いておりますが、新病棟が竣工するのは平成27年の予定です。従ってそれまでの間、現在のA病棟を最大限使用して病院運営をしてゆかねばなりません。特に、最も古い状態となってしまった小児科病棟をできるだけ早い時期に改装してA棟7階南に移し、6階南には産婦人科の小林教授の支援を得て、スーパー助産師養成のためのメディカルバースセンターを開設させることにしています。また4月から一般病床の看護体制を7:1看護で運用することになっています。これらのことも今後の病院の将来を決める大きな第一歩であり、成功させねばならないことです。

どうか皆様方のご支援をお願い申し上げます。

## 附属図書館長就任挨拶

平尾 佳彦



急速な情報電子化が進むなか、附属図書館長に再任されました。誰もが、いつでも、どこからでもコンピュータを通じて、最新科学情報を入手することが出来る時代になり、図書館機能が大きく変貌してきています。大学のご理解を得て電子ジャーナルとそのバックナンバーを積極的に導入し、科学情報発信の基盤整備を推進してきました。本年度は、まず懸案になっていました附属図書館の蔵書整理を行い、学習環境の整備を行います。また情報電子化にマッチした文献探索や情報整理のデータベースの提供をはじめ有効活用のサービスに努めていく所存です。さらに、本学の知的情報の発信の場である機関リポジトリを充実させ、e-learningの普及を積極的に推進いたします。学生を含め多くの本学教職員の方々にご利用していただけるように、図書館職員と共にこれらの事業を推進さすよう努めますので、ご支援、ご協力をお願い致します。

## 研究部長に就いて

小西 登



昨年4月に就任しました研究部長を引き続き担当させていただくことになりました。振り返ってみると、本学の研究部門が多岐にわたっており、そのいずれもが他学と比較して立ち遅れていることを痛感した1年間でした。大学院の改革、先端医学研究機構の運営と産学官の取り組みは本学の発展に欠くことができませんが、その立ち遅れはそのまま本学の厳しい状況を現しております。とりわけ、大学院の活性化と産学官の連携の積極的取り組みは急務で、これ以上の遅滞は許されません。昨年、大学院については出来る限りの制度変更を行ったところ、今年度は微増ではあるものの大学院入学志願者が増えました。産学官につきましても、県の本格的取り組みが始まったこともあり、昨年よりは少し明るい展望が期待できそうです。しかし、これらの推進については本学教職員・研究者をはじめ多くの方々のご理解とご協力がなければなりません。どうぞご支援の程よろしくお願い申し上げます。



## 看護学科長就任挨拶

飯田 順三



4月より看護学科長に就任致しました。2期目になりますが、看護学科には多くの課題があります。今や看護系大学は全国で178大学あり、優秀な学生の奪い合いです。本学でも優秀な学生を確保するために平成21年度より新カリキュラムを立ち上げました。このカリキュラムの柱は「看護実践能力の育成」であり、そのために実習設備を整える必要があります。また優秀な学生を確保し、本学の卒業生が本学の教員になれるようにするために大学院を設置する必要があります。さらに看護学の高度化、専門化に伴い、保健師養成課程と助産師養成課程が本年度より半年から1年以上になりました。それを受けて本学では助産師課程を大学卒業後の課程と位置づけ、専攻科にすべきか大学院の中に置かかを検討しなければなりません。最後に本学卒業生の本学附属病院への就職率をさらに向上させる必要があります。さまざまな課題がありますが、皆様方のご指導、ご鞭撻をお願い致します。

## 一般教育部長就任挨拶

大崎 茂芳



4月から一般教育部長を担当させていただくことになりました。一般教育の役割である教養教育の「教養」という言葉には「創造性」という意味が含まれています。教養教育は医学の専門教育に向けての基礎知識はもちろん、医師になってからの多くの困難な問題を解決する基本的な知識となり得ることから、中教審でも重要視されています。本年は受験制度の多様化、新入生の大幅増、また、大部分が「ゆとり教育」を受けた学生になってきたことから、一般教育ではその対応に多くの課題を抱える年になりました。最近の利益追求や効率化の風潮のある世の中で、高校時代までの「ゆとり教育」では本来「考える力」を身につけているはずの学生が、偏差値教育で暗記およびパターン化重視の影響で、いかに無駄がなく効率的に点数を取るかに走りすぎて「考える力」を忘れていく傾向にあります。そこで、一般教育としては、改めて、学生が創造力を養うための「考える力」を身につけるとともに、豊かな人間性を持った医師を育てる第一歩になるべく教養教育に力を入れたいと思っていますので、教職員の皆様方のご協力のほどよろしく申し上げます。

## 基礎教育部長就任あいさつ

羽竹 勝彦



このたび4月1日付けで基礎教育部長に就任しました法医学教室の羽竹勝彦です。今回は2期目の就任です。1期目の2年間は暗中模索状態で基礎医学教育についての現状を把握するのが精一杯で、力不足に終わってしまいました。

6年間の一貫教育で一般、基礎、臨床の枠組みをこえたカリキュラムなど、新たな試みがなされてきました。さらに平成22年度から113名の学生の定員増により生じる、講義や実習内容などの質、実習室のスペース、教員への負担増など様々な問題が予想されます。めまぐるしく医学教育のあり方あるいは状況が変遷する中で、いかに基礎教育の充実をはかり、また医学教育における位置づけを考えながら、基礎医学教育協議会の諸先生方の意見を集約し反映できるよう努力したいと思います。この2年間の経験をいかしながら、新たな気持ちで臨む所存ですので皆様のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

## 臨床教育部長に就任して

古家 仁



本年4月から引き続き臨床教育部長を拝命いたしました。この2年間、教育開発センターの森田教授とともに臨床教育の課題に取り組んで参りましたが、まだ多くの課題を残しております。幸いにもこの2年間の国家試験の成績は優秀な結果を示しており、前臨床教育部長の平尾教授、森田教授の努力が実ってきたものと推察されます。今後この結果を維持すると共に、学生の卒前教育と研修医の卒後教育を一環とした教育体制を構築していく必要があると感じております。

また、大きな宿題として残されているのが、スキルラボを含めた組織的な施設の必要性です。この点も充実したものになるように努力して参りたいと思います。

皆様方のご指導、ご支援をお願いする次第です。

## 看護教育部長就任の挨拶

脇田 満里子



このたび、看護教育協議会の推薦を受けて看護教育部長に再任されました。

振り返りますと、平成21年度から新カリキュラムがスタートして2年となり、3年次編入生は旧カリキュラムでの受け入れが本年最後となります。また、第3期生がこの春卒業しました。その間、新カリキュラム導入に向けての教育や実習環境に向けての整備が皆様のご理解とご協力の下、着々と進められてきました。今後、さらに大学院設置に向けての検討と法改正がなされた保健師および助産師教育の在り方検討が求められています。

看護教育において高度医療がすすむ中、社会のニーズが多様化、複雑化する中で今後のあるべき姿を常に明確にすることが求められています。

厚生労働省によると、看護師の医療行為が拡大された特定看護師の試行が本年度から開始されます。

従って長期的な目標も視野に入れた教育が実践できるよう努力したいと考えています。皆様方のご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い致します。

# 平成22年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

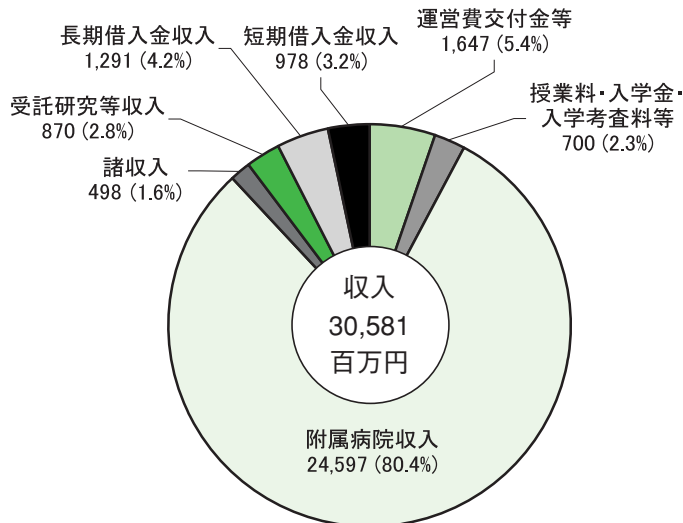
平成22年度予算は、「7対1」看護体制の導入、新棟整備など法人の将来を見据えた新たな取り組みを進めていくことなどから、総額305億8,178万円となり、前年度予算に比べ18億4,469万円の増となります。病院収入が増加する見込みであることなどから、赤字額が2億9,429万円縮小しますが、なお赤字予算となっています。

これは、看護師確保による人件費の増、患者数連動による医薬品費の増、新棟建設による施設整備費の増などにより、支出が18億4,469万円増加する一方で、病院収入が外来患者数増や「7対1」看護体制の導入、手術件数の増などによる単価増により11億6,441万円の増となるなど、収入が21億3,898万円増加することによるものです。

法人運営の安定のため、引き続き経営改善に向けた取り組みを進めていきますので、教職員のみなさんには、それぞれの分野でのご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 平成22年度予算の構成比

予算総額：30,581,783千円（対前年比1,844,696千円、6.4%増）



### 【収入】

#### 運営費交付金

法人の効率的で安定的な運営を確保するため、県から交付されるもの

#### 授業料・入学金・入学考査料等

大学、大学院授業料及び入学金など

#### 附属病院収入

診療報酬、診断書手数料など

#### 諸収入

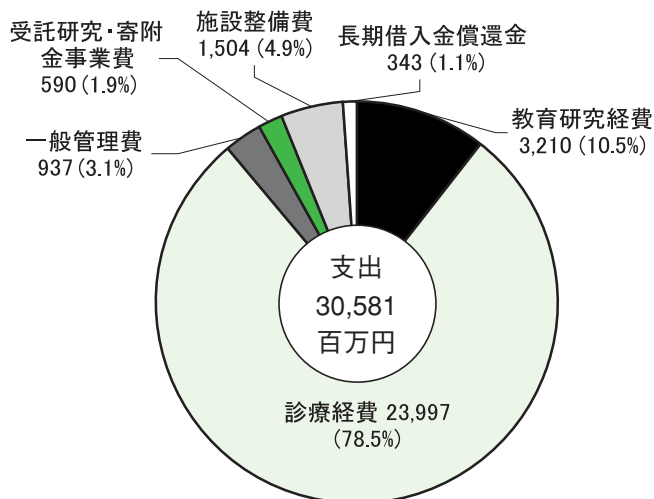
駐車場収入、国庫補助金など

#### 受託研究等収入

外部からの資金

#### 長期借入金収入

施設整備や医療機器の整備に関する借入金



### 【支出】

#### 教育研究経費

教育関係費、研究関係費、図書館の経費など

#### 診療経費

医薬材料費、医事委託費、機器保守経費及び診療にかかる人件費など

#### 一般管理費

火災保険、銀行手数料など法人運営に関する経費（人件費を含む）

#### 施設整備費

新棟整備、医療用備品整備及び大学・病院施設改修など

#### 受託研究・寄附金事業

寄附講座、寄附金・受託収入及び科学研究費等による研究事業経費

## 平成22年度予算の主要事業・新規事業

### ○法人の将来を見据えた新たな取り組み

**新** 附属病院新棟整備事業 628,000千円  
手術室、総合周産期母子医療センター、パースセンターなどA棟機能を移転する新棟建設に着手  
現A棟整備（パースセンター暫定整備、小児科病棟改修）

**新** 「7：1」看護体制の導入  
特定機能病院にふさわしい看護体制を実現

### ○教育研究の充実

教育環境の充実（医学科） 58,898千円 増額  
医学科定員増などに対応するため、実験実習費や教育用備品費を増額

教育環境の充実（看護学科） 3,000千円  
新カリキュラム対応など看護学科の教育環境の充実を図る

**新** 総合研究棟セキュリティ設備更新事業 7,256千円  
老朽化した「入退室管理システム」などをリース方式により更新

**新** （仮称）地域医療学講座事業費 80,000千円  
県からの交付金を財源に、地域医療に関する研究を行う講座を設置

医学科講座研究費 166,359千円（H21 166,359千円）

看護学科教員研究費 11,107千円（H21 11,107千円）

### ○看護師の確保等

看護師等の確保対策 39,098千円（H21 39,400千円）  
看護学校訪問、看護職員専用宿舎の確保など、看護師確保に向けた取り組みを継続

看護師研修を引き続き充実 11,000千円（H21 11,445千円）  
先進的な病院での派遣研修のほか、認定看護師資格取得、看護協会主催の研修参加に要する経費を助成など

職員健康管理事業の充実 10,407千円（H21 4,202千円）  
深夜業務従事者に対する年2回の特別検診の実施、QFT検査（結核検査）の導入など

ホルムアルデヒド対策 13,246千円（H21 49,394千円）  
剖検室の設備改善及び取扱い場所の濃度測定の実施

**新** 救急勤務医手当の創設  
医師給与処遇の改善として、新たに救急勤務医手当を創設

### ○患者サービスの向上

患者アメニティ向上整備 50,000千円（H21 50,000千円）  
病院玄関改修、外来トイレ、外来診療室ブラインド改修など  
別途、外来エレベータ設置（H21から継続） 26,000千円

**新** 病院紹介映像作成事業 5,000千円  
来院者などに病院や診療科を紹介する映像を作成

テレビ共聴設備デジタル放送対応化工事 11,000千円（H21 11,000千円）  
2011年からのテレビ地上放送デジタル化に対応

### ○病院機能の充実、経営改善の推進

**新** 入院係直営化推進  
入院患者の診療報酬請求直営化のための職員の採用、体制の整備

病院機能評価の受審準備 27,282千円（H21 5,400千円）  
病院機能評価の受審のための準備、本審査、認定取得

**新** 精神医療センター改修 50,000千円  
センター2階に精神科救急・合併症患者受け入れのための病床を整備

医療用備品の整備 650,000千円（H21 450,000千円）



# 先端研だより

## ご活用ください！マルチモードプレートリーダー導入

平成21年度の大学備品として新しくマルチモードプレートリーダーを総合研究棟4Fに設置しました。本機器は、『吸光』や『蛍光』等を兼ね備えており、高額消耗品であるフィルターは一切不要となっています。また、最適な励起及び蛍光測定の設定が行え、マウスボタンを数回クリックするだけで測定手法や蛍光色素の変更とシステムの最適化を行うことが出来る優れたものです。

機器使用に先立ち、2月16日(火)～18日(木)に説明会を行いました。

基礎・臨床等を問わず、幅広い研究にご活用ください。



問い合わせ先：研究推進課研究推進係（内2554）

## 第17回 中島佐一学術研究奨励賞決定！

奈良県立医科大学において医学の学術研究に優れた業績をあげた若手教員を対象として募集したところ7件の応募があり、2月12日に開催された選考委員会で審査した結果、次の2名の方が受賞の栄冠に輝きました。

所属	職名	氏名	研究テーマ
第一内科学	助教	川田 啓之	抗血栓作用、再狭窄抑制作用、および再内皮化促進作用を兼ね備えた次世代型冠動脈ステントの開発に関する研究
脳神経外科学	助教	中川 一郎	薬剤性虚血耐性現象の解明

## 第37回 住居医学研究会の開催について

日時	平成22年5月20日(木) 16:00～17:30
演題	住居温熱環境と健康
講師	奈良女子大学 生活環境学部 生活健康・衣環境学科 准教授 久保博子 先生
会場	基礎医学校舎5階会議室

# 寄附講座「血圧制御学講座」を開設

平成22年4月、万有製薬株式会社による寄附講座「血圧制御学講座」を開設しました。  
 本学では、「住居医学講座（平成18年度開設）」、「血栓制御医学講座（平成21年度開設）」  
 に次ぐ3番目の寄附講座になります。

## □ 寄附講座「血圧制御学講座」の概要

- ・ 研究領域 血圧における食塩と高血圧発症の影響を検討
- ・ 寄附講座教員 教授 斎藤 能彦(現 第一内科学 教授) ※斎藤教授は寄附講座教授を兼務  
 講師 染川 智 (前 第一内科学 助教)
- ・ 講座開設期間 平成22年度～平成24年度(3年間)
- ・ 寄附者 万有製薬株式会社(東京都千代田区九段北一丁目13番12号 北の丸スクエア)
- ・ 寄附総額 6千万円(一括寄附)

## □ 寄附講座「血圧制御学講座」で今後取り組む研究内容

人類にとって高血圧症は脳心血管系イベントの最強の危険因子であり、3000万人の国民が罹患しています。高血圧症の発症機序には、食塩とレニン・アンジオテンシン・アルドステロン系の活性化の双方が必須であり、そのどちらかでは高血圧は発症しません。一方、ナトリウム利尿ペプチド系は、この食塩とレニン・アンジオテンシン・アルドステロン系と機能的に拮抗することが知られています。本講座では、これら食塩とそれに関連する生体調節系の役割を解明し、高血圧発症機序の解明に挑戦します。

## □ 寄附講座設置に当たり

### 理事長 吉岡 章

このたび、万有製薬株式会社から、社会貢献活動(CSR)の一環として寄附講座を提供していただけることとなりました。

今後3年間にわたり、当該寄附講座で高血圧発症の機序を解明すべく集中的に研究を行います。その結果が、国民病とも言える高血圧症克服のきっかけに繋がり、県民の皆様だけでなく国民全体の健康増進にも役立つよう、研究成果を出していく所存です。

### 万有製薬株式会社 代表取締役社長 マーク・ティムニー

高血圧領域において高い研究実績のある奈良県立医科大学第一内科学教室での血圧制御学講座の開設をサポートすることになり、大変喜ばしく感じております。万有製薬は、世界一流の医薬品・ワクチンを提供し、人々のクオリティ・オブ・ライフに貢献することをミッションと考えています。日本の人々の健康のためにも、産学連携による優れた研究は非常に重要と位置づけており、本寄附講座のサポートを通して高血圧研究のさらなる発展、日本の医療に貢献していきたいと考えております。

### 血圧制御学講座教授 斎藤 能彦

このたび、万有製薬株式会社から、血圧制御学講座の寄附の申し出があり、私が、その寄附講座を第一内科学教室と兼務の形で担当させていただくことになりました。大変光栄なものと存じております。私が、長年研究テーマとして参りました、ナトリウム利尿ペプチド系、レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系は高血圧の発症・進展に深く関与しているところは明らかであります。これらの系と日本人に多い食塩感受性高血圧との関連を含めて高血圧発症・進展機序の解明に努力したいと思っております。このたび、専任講師として赴任する染川智博士とともに研究に精進したいと考えております。

# 産学官連携だより

## 産学官連携活動の一部を関西TLO株式会社 に業務委託します

本学では、昨年度から特許庁の大学支援の一環として、大学知的財産アドバイザーの金崎参与の派遣を受け、知的財産管理体制の構築に取り組んでおり、今年度、新たに関西TLO(株)と提携することで、より積極的に産学官連携の推進に取り組んで参ります。

具体的には、知的財産のマネジメント・技術移転・産学官連携及び外部資金獲得のさらなる向上を図るため、仲介業務に関する業務委託契約を締結するというもので、この契約に基づき、関西TLO(株)の坂井貴行さんと五十川二美さんが本学を担当し、各研究室を訪問して、研究シーズ・ニーズの把握、発明の発掘、先行技術調査、技術移転活動など、色々な角度から本学の産学官連携活動の支援をしていただくこととしています。訪問の際は、どうぞよろしくお願ひします。

### 関西TLO(株)について

(同社ホームページ<http://www.kansai-tlo.co.jp>より)

商号 関西ティー・エル・オー株式会社

所在地 京都市下京区西洞院通塩小路下る 東塩小路町939

資本金 6,000万円

設立 1998(平成10)年10月

#### 関西TLO(株) 奈良医大担当者のご紹介



坂井 貴行(さかい たかゆき)  
関西TLO株式会社 取締役  
同志社大学文学部卒業、京都工芸繊維大学工学科学研究科修了。三菱自動車工業株式会社、立命館大学産学官連携推進部門を経て、現職。奈良県立医科大学総括責任者。



五十川 二美(いそがわ ふたみ)  
関西TLO株式会社 アソシエイト  
Martin College Diploma of International Business, Australia、立命館大学産学官連携推進部門を経て、現職。奈良県立医科大学専任担当者。

## 第1回 健康・医療ものづくり交流会が開催されました

奈良県では、県内産業活性化のためのマッチングを推進するため、分野毎にものづくり交流会を創設することとなり、その第1弾として、『第1回 健康・医療ものづくり交流会』が2月16日に蔽櫃会館において開催されました。

交流会には、県内外の産業界から49社67名、学術・研究機関9機関をはじめ、総勢約140名の参加があり、特別講演として、山梨大学の健康・医療分野における産学官連携の成功事例が紹介されたほか、本学や奈良先端科学技術大学院大学等から発表されたシーズ・ニーズについて、積極的な意見交換が行われ、熱気に包まれた産学官交流の場となりました。

参加者のアンケートでも約7割の方が、「大変参考になった」、「参考になった」と答えています。



熱心に講演を聞く参加者のみなさん

## 平成22年度 利益相反行為に関する自己申告書の提出をお願いします

本学においても、昨年度より利益相反マネジメントの運用が開始されています。近日中に平成22年度の自己申告書(平成21年度分または暦年の平成21年分)の提出を各所属長あて依頼しますので、該当される方は、申告書の提出をよろしくお願ひします。

利益相反マネジメントの運用の概要については、学報バックナンバー(January2010 vol.31、<http://www.naramed-u.ac.jp/gakuho/vol31.pdf>)をご参照ください。

**提出先：利益相反管理委員会事務局：研究推進課産学連携推進係(内線2552)**



# 企業との交流における本学の知的財産保護の注意点

## —情報開示前に「秘密保持契約」の締結を!—

本学における民間企業等との産学官連携も、今後様々な形で展開していくものと期待され、それは法人の中期計画にも沿うものであります。従って産学官連携活動は大学組織が一丸となって推進していかねばなりません、その時に、注意しておかなければならない点を述べさせていただきます。

本学はもとより、大学は各分野における最先端の研究を行っていますので、企業にとって非常に**魅力的な組織**です。研究者にとっても、研究シーズが企業により社会還元されることは業績のひとつです。

今回の交流会の開催を契機に、産学連携活動の活発化が期待されますが、そこには思いもよらない落とし穴があります。例えば、**悪質な企業は、交流で研究者から自分たちが欲しい情報を根掘り葉掘り聞き出し、その情報をもとに、他の研究パートナーと共同研究をすることがあります。また、特許出願の準備中や論文発表前の研究シーズを研究者の了解なく他者に開示してしまうこともあります。これではせっかくの研究シーズが共同研究等に発展せず、大学側は何の恩恵も受けられません。**

このような事態に陥らないために、**研究者の方々が行っている研究シーズは、大学にとっての財産＝知的財産である**との認識を持ち、この知的財産を大学が組織として保護・活用していくことが大切です。そのためには、まず企業との交流開始に先立ち「秘密保持契約」を締結し、相手方に開示する情報（研究シーズ）は秘密情報として取り扱うように求める必要があります。このことが、企業と大学との信頼関係も確立することになり、産学連携活動を円滑に、かつ効果的に推進することのベースにもなります。

交流を開始する研究者の方々で、秘密保持契約書の雛型が必要な場合は、研究推進課産学連携推進係（基礎医学校舎4階・内線2552）まで、ご連絡ください。

## 学会等における論文賞の受賞について

受賞者			賞の名称	受賞論文等	受賞日
所属	職名	氏名			
生物学	講師	高橋 昭久	日本ハイパーサーミア学会・阿部賞受賞	温熱誘導細胞死の基礎的研究	平成21年 9月11日
生物学	講師	高橋 昭久	国際癌治療増感研究協会 協会賞受賞	がん細胞の温熱耐性獲得を抑制するしくみの解明	平成21年 6月20日
生物学	大学院生	近藤 夏子	2nd Asian Congress of Radiation Research Poster Award	The therapeutic target of DNA repair pathways against alkylating agents	平成21年 5月20日
生物学	留学生	Xiaoming Su	2nd Asian Congress of Radiation Research Poster Award	NO radicals choreograph p53-dependent radiosensitivity in lung cancer cells	平成21年 5月20日
第二生理学	教授	高木 都	第18回日本臨床環境医学会学術集会会長賞	シックハウス症候群 関連化学物質の循環器系と心筋活動への影響	平成21年 7月 4日
第二生理学	助教	張 国興	平成20年度 中島佐一学術研究奨励賞	心肥大を伴う不全心形成におけるSERCA2と酸化ストレスの役割	平成21年 2月 9日
第二生理学	助教	松吉 ひろ子	第2回 J-FD研究会 優秀演題賞	機能性胃腸症治療薬、クエン酸モサブリドの5-HT4受容体を介する腸壁内神経の再生作用	平成21年11月14日
病理病態学	講師	島田 啓司	日本病理学会(第10回)学術奨励賞	泌尿器科腫瘍におけるDNA修復蛋白ALKBH familyの分子病理学的意義について	平成21年 5月 2日
整形外科学	名誉教授	高倉 義典	日本整形外科学会 学会賞	—	平成21年 5月13日
産婦人科学	助教	吉澤 順子	第14回日本病態プロテアーゼ学会奨励賞	肝細胞増殖因子(HGF)はCOX-2の発現を介して子宮内膜癌細胞のアノキス抵抗性を高める	平成21年 8月21日
小児科学	講師	野上 恵嗣	平成20年度 中島佐一学術研究奨励賞	“血液凝固第Ⅷ因子の構造・機能連関”血液凝固における第Ⅷ因子活性化・不活性化機構の解明と新たな凝固療法への応用に関する基礎研究	平成21年 2月 9日
皮膚科学	医員	平野 亜由子	第108回日本皮膚科学会総会 ポスター賞	蚊アレルギーからEBV感染T細胞性リンパ腫を発症し臍帯血ミニ移植が著効した一例	平成21年 4月25日
皮膚科学	医員	平野 亜由子	Best Clinical Poster Award (The 4th Joint Meeting of JDA and ACD)	A case of EBV-positive T cell lymphoma, developed from severe hypersensitivity to mosquito bites, cured by cord blood stem cell transplantation	平成21年 7月11日
放射線医学	助教	北野 悟	RSNA Education Exhibit award-Certificate of Merit	Peripheral Run-off in Patients with Renal Dysfunction: Low Dose CTA to No Dose MRA	平成21年12月 2日
感染症センター	助教	笠原 敬	社団法人日本化学療法学会 海外留学補助金	—	平成21年 3月 1日
感染症センター	非常勤医師	中川 智代	第51回日本感染症学会中日本地方会 学術奨励賞	遺伝子学的に診断したペニシリン耐性肺炎球菌による化膿性心外膜炎の一治癒例	平成21年11月27日

# 看護部長就任あいさつ

正木 幸美 (まさき さちみ)



4月1日付けで看護部長に就任いたしました。平成15年に異動し県立病院の看護副部長・行政・看護部長を経験して7年ぶりに勤務することになりました。「7:1」看護体制導入と維持・病院機能評価受審・バースセンター開設など多くの課題がありますが、看護部として役割を果たすべく多職種の方々の協力を得ながら一つ一つ取り組んでいきたいと考えています。看護師の役割拡大が問われている中で、9名の看護副部長とともに生き生きと働ける看護現場を作っていきたいと思っています。今後ともご指導ご協力をお願いいたします。

## 病院機能評価の認定取得に向けて

(経営企画課)

病院機能評価とは、平成7年7月に病院を始めとする医療機関の機能を学術的観点から中立的な立場で評価し、その結果明らかになった問題点の改善を支援する第三者機関として設立された「財団法人日本医療機能評価機構」が平成9年から行っている事業です。

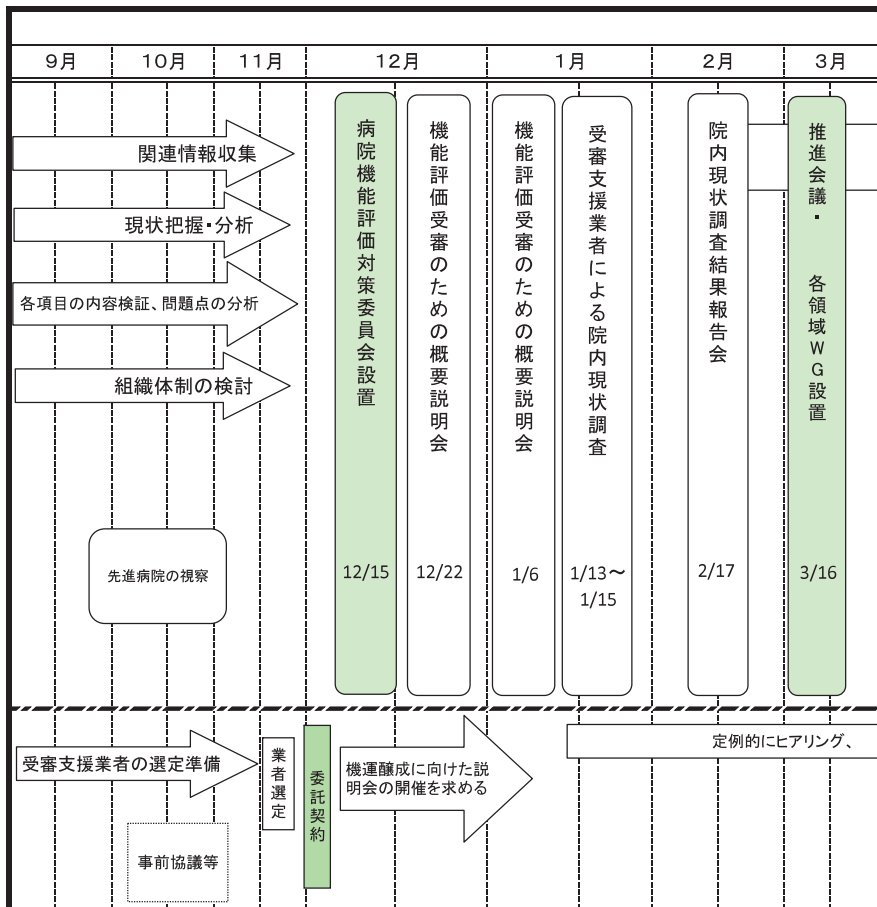
病院機能評価は「書面審査」と「訪問審査」で構成されており、「書面審査」は「訪問審査」に先だって実施されるもので病院の現状等について所定の調査票を作成、提出するものです。また「訪問審査」は専門的知識を有するサーベイヤーが病院を訪問し、第三者の立場でそれぞれの見地から中立的・客観的な審査を行い、評価するもので、それぞれの審査の結果は「審査結果報告書」として取り纏められます。この報告書の各評価項目に係る点数が標準的な水準以上であれば認定され、「認定証」が発行される流れとなっています。

一方で、病院機能評価の認定状況は、財団法人日本医療機能評価機構の情報によりますと、平成22年3月現在で全病院数8,766のうち、2,574の病院が認定取得しており、29.4%の取得率となっています。しかし、全国8つの公立医科大学附属病院に限って見ますと、当院だけが未取得のままという現状になっています。

このように、多くの病院が病院機能評価の認定を受ける理由は、国民の保健医療に対する関心や要求が高まっている中で、病院自らが第三者評価を受けることによって病院の現状を客観的に把握し、さらにそれを踏まえて医療の質の向上や効果的なサービスの改善に取り組もうとする想いの現れであると解されます。また認定証を院内掲示することによって患者の信頼を得るとともに、診療報酬でも緩和ケア病棟入院料が病院機能評価の取得を算定要件とされたことなども(平成22年度診療報酬改定で要件が緩和されました)少なからず認定取得を促進させた要因ではないでしょうか。

### 病院機能評価受審に向けた取組スケジュール

※平成23年3月の病院機能評価認定取得を前提としたスケジュール

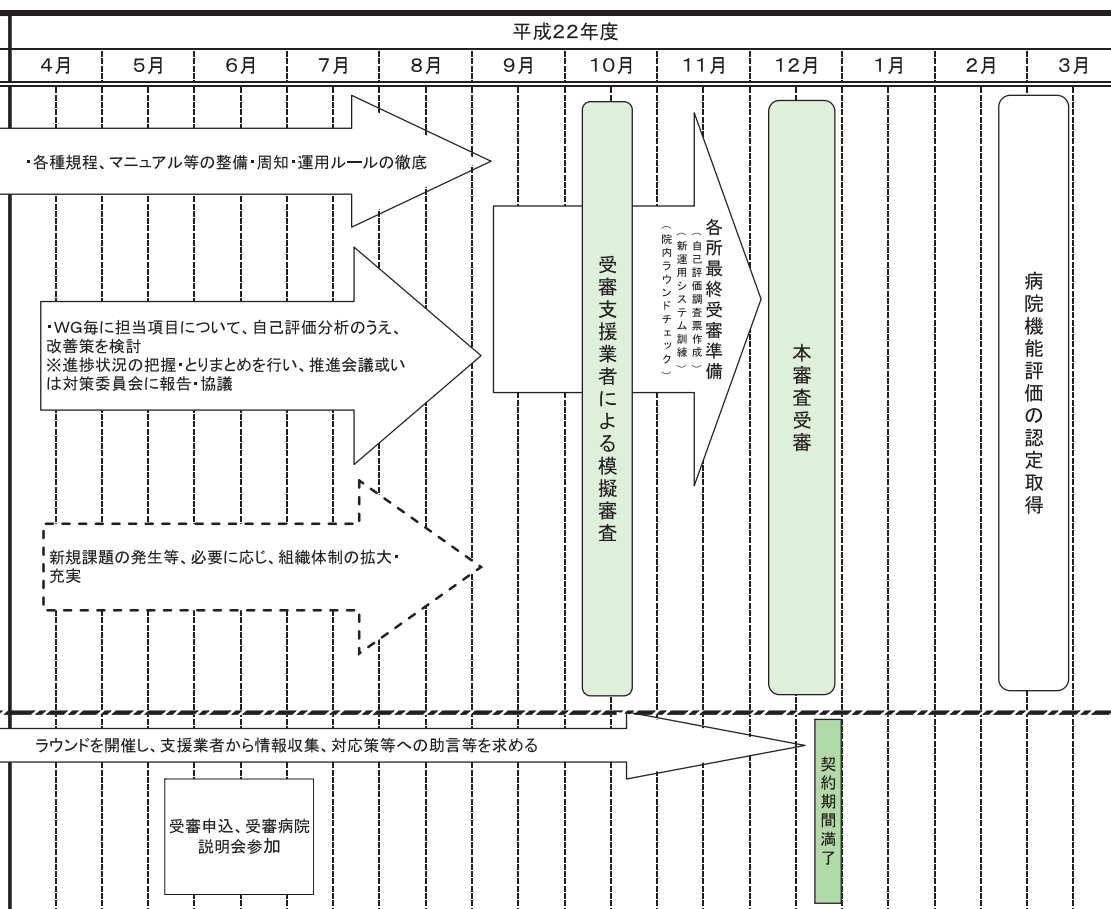
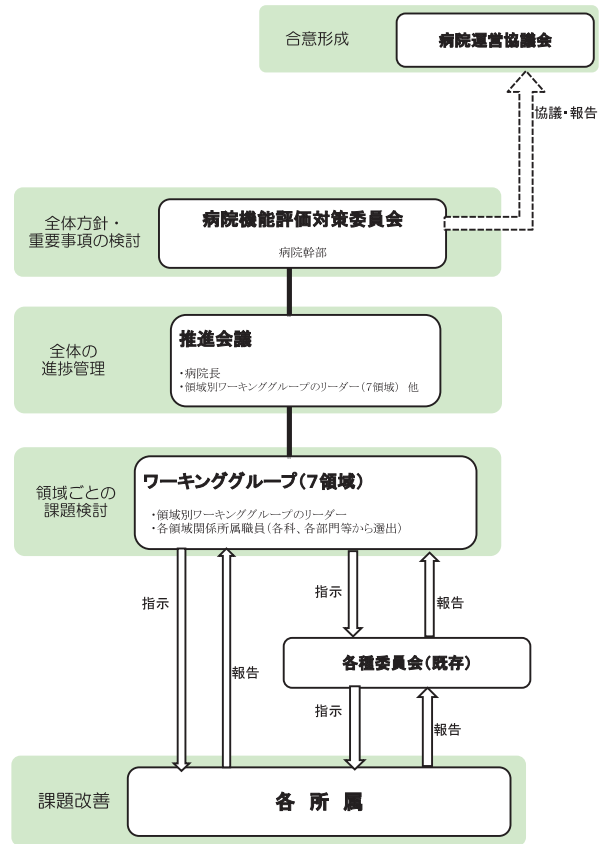


当院の今後を考える時、他院と同様に一層の診療機能の向上や患者サービスの充実を目指していく意味からも、機能評価の認定取得に向けた取り組みを推進していくことは喫緊の課題であります。

これらを受けて、病院長のリーダーシップのもと、平成22年度中の認定取得を目標に掲げ、昨年末には病院機能評価受審支援業者を選定するとともに、病院機能評価対策委員会を立ち上げ、推進体制を構築、さらに推進会議やワーキンググループを設置する等の取り組みを進めてまいりました。また、各所属の皆さんの協力をいただき、受審支援業者による詳細ヒアリングを実施し、それぞれの所属が抱える課題の検証、解決策の検討を進めていただいております。

平成22年度中の認定取得という時間のあまりない中で、今後、多く存在する種々の課題を効率的にまた効果的に、かつスムーズに解決し、病院機能評価を受審、認定取得するためには、医師、看護師を始めとして各所属の皆さんの理解と協力、智恵・工夫、そして何より「必ず年度内に認定取得するのだ」という強い想いが非常に重要なファクターとなります。

日々の診療や業務で多忙な中とは思いますが、この認定取得を当院をより良く改善していくためのきっかけづくりとして理解いただき、一層の取り組み推進に協力くださるよう宜しくお願いします。





# 診療報酬の改定について

近年の診療報酬の改定については、停滞する社会経済情勢や高齢化社会への移行等を背景に、総医療費の抑制をめざして「マイナス改定」が進められてきましたが、今回の改定では、ハイリスク医療への対応や救急医療の充実、勤務医の処遇改善等を中心に、**制度全体の改定率が+0.19%（約700億）、10年ぶりのネットプラス改定**が実施されます。

上記の診療報酬改定の概要について説明します。

## 全体改定率 +0.19%（約700億円）

診療報酬（本体）+1.55%（約5,700億円）

医科+1.74%（約4,800億円）  
 { 入院+3.03%（約4,400億円）  
 { 外来+0.31%（約400億円）

急性期入院医療に概ね4000億円を配分

歯科 +2.09%（約600億円）

調剤 +0.52%（約300億円）

薬価等 ▲1.36%（約5,000億円）

## 診療報酬改定のポイント

### 1. 「重点課題」への対応について

#### ● 救急医療の評価の充実

救命救急センターの評価の充実や地域において救急医療を積極的に提供している医療機関の評価が行われる。

／充実した体制の救命救急センターの評価

救命救急入院料充実度評価A加算500点→1,000点

／二次救急医療機関における入院医療の評価

救急医療管理加算600点→800点

乳幼児救急医療管理加算150点→200点

／手厚い急性期入院医療の評価

ハイケアユニット入院医療管理料3,700点→4,500点

#### ● 産科医療の評価の充実

産科医療の充実を図るため、合併症等によりリスクの高い分娩を行う妊産婦の入院や緊急搬送による入院を受け入れた場合について、評価が行われる。

／ハイリスク分娩管理の評価

ハイリスク分娩管理加算2,000点→3,000点（1日につき）+対象拡大

／緊急搬送された妊産婦の受入の評価

妊産婦緊急搬送入院加算5,000点→7,000点（入院初日）+対象拡大

#### ● 新生児集中治療の評価

NICUの評価を更に充実させるとともに、要件の緩和等が行われる。

／ハイリスク新生児に係る集中治療の評価

新生児特定集中治療室管理料8,500点→10,000点

／NICUよりハイリスク児を直接受入れる後方病床の評価

**新** 新生児治療回復室入院医療管理料5,400点

### ● 小児の入院医療の充実

よりきめ細やかな評価としつつ、小児急性期医療への対応状況を踏まえた評価の見直しを行い、重篤な小児患者を受け入れる医療体制についての評価が新設される。

／地域の小児救急入院医療を担う医療機関の評価

●(新) 小児入院医療管理料2 (区分新設) 4,000点 (特定機能病院においても可)

### ● 手厚い人員体制による入院医療の評価

急性期の入院医療においても、患者の高齢化等に伴い、看護補助業務の重要性が増している状況で、病院勤務医の負担軽減の観点からも、医師業務の一部を看護職員が担いつつ、看護職員でなければならない業務に専念するため、看護補助者の常時配置について評価される。

／7対1病棟、10対1病棟における看護補助者の配置の評価

●(新) 急性期看護補助体制加算1 (50対1配置) 120点 (14日まで)

●(新) 急性期看護補助体制加算2 (75対1配置) 80点 (14日まで)

### ● 多職種からなるチームによる取り組みの評価

急性期の入院医療を行う一般病棟において、栄養障害を生じている患者又は栄養障害を生じるリスクの高い患者に対して、医師、看護師、薬剤師及び管理栄養士などからなるチームを編成し、栄養状態改善の取組が行われた場合の評価が新設される。

／栄養サポートチームによる栄養改善の取り組みの評価

●(新) 栄養サポートチーム加算200点 (週1回)

／呼吸ケアチームによる人工呼吸器離脱に向けた取り組みの評価

●(新) 呼吸ケアチーム加算 150点 (週1回)

### ● 手術料の適正な評価

／外保連※試案を活用した手術料の引き上げ

主として病院で実施している難易度が高く人手を要する手術について、現行点数が30%~50%増点される。

／小児に対する手術評価の引き上げ

3歳未満の小児に係る手術に加え、3歳以上6歳未満の小児についても乳幼児加算の対象とされる。

／新規医療技術の保険導入

腹腔鏡下肝部分切除術、肝門部胆管癌切除術及びバイパス術を併用した脳動脈瘤手術など約80項目の新規手術が保険導入される。

※外保連：外科系学会社会保険委員会連合の略称で、診療報酬の適応化を図ることを目的とした連合体

## 2. 「4つの視点」について

- 充実が求められる領域 (がん医療・認知症医療・感染症対策・肝炎対策) の推進
- 患者から見てわかりやすい医療の実現・・・明細書の無料発行など

## 3. 「後期高齢者医療という年齢に着目した診療報酬体系の廃止」について

- 75歳という年齢に着目した診療報酬体系が廃止される。

厳しい法人の経営環境に加えて、今年度は7：1看護体制の導入に伴う人件費の増等が見込まれ、予算上は引き続き、約10億円の赤字となっています。

このような状況の下で、診療行為が、効率よく報酬となるようがんばっていきたく思いますので、ご協力をお願いします。

## 看護師として働きながら本学大学院修士課程で学んでいます

集中治療部 松浦 一  
救命救急センター 伊藤 雪絵

私たちは病院職員として働きながら、奈良県立医科大学大学院医学研究科医科学専攻（修士課程）で昨年の4月から大学院生として勉強しています。

大学院に入学するきっかけは、看護師を続けるか、それとも違う道に進むかと迷っている時に、大学院に行ってみる気はないかという修士課程の説明会へのお誘いを頂いた事でした。二人とも、今後自分が進む道を模索していた時期でしたので、渡りに船と勧めに従いました。働きながら学ぶことに不安が無かったかというウソになりますが、色々な知識や経験を積むことがマイナスになることはないと考え、決意しました。また指導教員である今村教授とお会いして話を伺い、先生の人柄と熱意に惹かれたことも大きかったと思います。

今年大学院2年目を迎えるわけですが、やはり日常業務と大学院、家庭と大学院の両立には様々な障害がありました。大学院へは休日や夜勤明け、夜勤前を利用して通うのですが、想像していた以上に時間的にも体力的にも余裕がないことに気づきました。仕事や家庭を優先させなければいけないので、どうしても大学院に使う時間が割かれてしまいます。また、休日や仕事の前後の時間を使いますのでその分休みにあてる時間が少なくなります。この点にやはり社会人入学という事の難しさを感じずにはいられません。職場や家庭内でのバランスを上手に調整する必要があります。有給休暇等を有効に利用できる制度や雰囲気をもう少し職場で築いて頂けると有り難いと感じました。

働きながら大学院で学ぶことは決して楽な選択ではありません。ただ、普通に看護師をしているだけでは知りえなかった知識や経験を得ることが出来るのは非常に魅力的です。

今後の進路に悩んでいる方、働きながら大学院に通いたいと思っている方、自分を追い込みたい方、大学院という選択もあります。如何ですか。

本学大学院で勉強している2人



高度救命救急センター  
伊藤 雪絵さん  
(4/12から消防庁救急企画室)



ICU  
松浦 一さん

### 学務課からご案内 ～意欲ある方の入学をお待ちしております～

上記のお二人のように、働きながら修士課程で学んでいただけるように、平成20年度から社会人入学の制度ができました。

23年度の募集要項はまだできておりません（22年7月下旬発行予定）ので、参考までに今年度（22年度）の分をお示ししておきます。

第1次試験	出願期間	21年 9月 7日（月）～9月11日（金）
	学力検査	21年 9月24日（木）
	合格発表	21年10月13日（火）
第2次試験	出願期間	22年 2月 1日（月）～2月 5日（金）
	学力検査	22年 2月17日（水）
	合格発表	22年 3月 9日（火）

なお、博士課程についても、同様の制度があります。詳しくは学務課教務係大学院担当まで。 内線2401

# インドネシアから看護師候補者2名をお迎えしました

平成20年度より始まった日本・インドネシア経済連携協定により平成21年度も2名の候補者を受け入れ、平成22年1月16日から就労を開始しています。2人は、B棟6階・C棟6階で働きながら日本語・国家試験対策の勉強をすすめていきます。



2人からあいさつ文をお預かりしています。原文で紹介します。

初めまして、私の名前はマリアナ・レストゥリナと申します。(写真:右)マリアナとよんでください。私は 25歳です。インドネシアのポンティアナクからまいりました。国立病院で2年間はたらいておりました。私は初めは日本ごの勉強は全然分かりませんでした。でも2009年8月から2010年1月まで日本ごの学校で勉強したから 今では少しずつ分かるようになりました。日本ごを勉強するとき、一番難しいことは漢字です。漢字の読み方とか意味とかカタカナも難しいです。でも日本ごは難しいけど面白いです。楽しかったです。だから私はこれから頑張ります。初めて 私はこの病院にきてびっくりをしました。この大学と病院は大きくてきれいだからです。そして親切な人がいっぱいいることです。私は 楽しく働いています。いろいろな人に教えて貰ったり説明して貰ってありがたくおもっています。頑張ります。

こんにちは。メイラニ・マヤ・イリアナです。(写真:左)インドネシアからまいりました。1月19日から奈良県立医科大学附属病院の心臓・血管・呼吸器外科で働いています。月曜日から金曜日までC棟6階で患者様やスタッフと一緒に日本語ですっと話し、新しい日本の文化を教えてくださいました。楽しく、面白いです。皆様が優しく親切だと思います。たくさん難しい言葉が まだ分かっていないので、日本語を頑張って勉強しています。仕事も頑張っています。

## Welcome to 奈良医大 ～チェンマイ大学からのお客様～

平成22年2月23日～3月9日までの15日間、タイのチェンマイ大学医学部から2名の学生が来学しました。彼女たちは、健康政策医学、第二内科学、神経内科学、小児科学、救急医学の5教室で研修するとともに、本学学生とも大いに親睦を深めました。関係教室の先生や職員の皆様方、本当にありがとうございました。

また、本学からは4名の学生(※敬称略)が3月28日～4月6日までの10日間、チェンマイ大学を訪れ、現地の医療・医学事情等について見聞を広めました。

以上は、本学とチェンマイ大の間で締結された学術交流協定に基づくもので、今回の受入・派遣で第11回目となります。今後も学生諸君の積極的な参加を期待します。

写真左 Unyavee Apichottiwat  
アンヤビー アプチョッチワットさん  
右 Passara Itsathitphisarn  
パスラ イサシバイサンさん

(※)5年:梶田明裕 6年:西畑陽介、  
濱田祐斗、矢田匡[学年は22年度]



吉岡学長を囲んで



# あなたは救命処置に自信がありますか？ 担当患者の急変に対応できますか？

～ 院内 一次救命処置 講習会のご案内 ～

医療安全推進室 BLS&AEDワーキング 麻酔科 河野 安宣



2008年5月から、「医療安全全国共同行動-いのちを守るパートナーズ-」としてのキャンペーンが始まりました。行動目標として8つの目標が掲げられていますが、その中に「急変時の迅速対応」、という項目があります。これは、患者急変時に対応する専門チーム (Medical Emergency Team: MET) やシステム (Rapid Response System: RRS) を構築し、心肺停止になる前や重症化する前に対応する、いわば院内重症患者に対する早期介入という理想的な体制を意味しています。このシステムにも課題はあると思いますが、“医療安全” という視点からみても、急変時対応、心肺蘇生法は必須の要素であり、病院全体としての対応が求められています。

一次救命処置 (Basic Life Support: BLS) は、いわゆる心肺蘇生法の根幹をなす非常に重要な処置です。2005年版心肺蘇生ガイドラインでは、そのBLSの重要性が特に強調されています。院内で患者急変が起きた時、現場は非常に混乱します。その中で正しい心肺蘇生法を実践することは、簡単ではないかもしれません。しかし、医療従事者であれば、患者を前にして適切な行動をとることが求められますし、ガイドラインに基づいた標準的な手技を身につけておく必要があると思われます。

また、皆さんもご存じのように、大学にある4台、外来部門にある5台と合わせて、昨年、各病棟のエレベーターホールに自動体外式除細動器 (Automated External Defibrillator: AED) を設置することができました。しかし、AEDを設置するだけでは救命はできません。その使用方法を知った上で標準的なBLSを提供することが必要不可欠です。

一方、病院外ではAEDの普及とともに、非医療従事者が行う蘇生処置により一命をとりとめた、というニュースをよく耳にします。一般市民が心肺蘇生法を行うような社会に変化しつつある中、病院で勤務する職員や医療従事者が、心肺蘇生ができない、知らないという、逆転現象のような状況は決して許されるものではありません。

心肺蘇生法に関する様々な講習会が行われていますが、数年前から医療安全推進室AEDワーキングのメンバーが中心となって、心肺蘇生法のエッセンスだけを抽出し、BLSとAEDの使用法に関して、蘇生人形を用いた体験型院内講習会を開催しています。冒頭で述べたように、病院全体としての対応という観点から、全職員の講習会受講が強く求められていると思います。

院内講習会は日勤終了後の貴重な時間を利用し、短時間・少人数で行っています。今年は定期開催を検討中ですので、実際の現場で慌てることのないよう、この機会に心肺蘇生法を体得してください。

講習会へのお問い合わせや、ご不明な点・詳細につきましては医療安全推進室 (内線:3131) までお願いします。

# 活躍する認定看護師たち

(看護部)

## 皮膚・排泄ケア認定看護師



前川 和世 (創傷相談室)

皮膚・排泄ケア認定看護師は、ストーマケアと急性・慢性創傷のケア、失禁へのケアを専門としています。スキンケアは皮膚・排泄ケアの領域すべてに共通し基礎となる部分であり、健康を害した皮膚ならびに皮膚障害のリスクの高い脆弱な皮膚に対し、健康を取り戻すことを目的としています。

院内での活動としては、院内褥瘡チームの一員として褥瘡回診にかかわり、褥瘡の予防や、創傷治癒の環境を整えられるような局所・全身管理の指導を行っています。また、ストーマ外来でのストーマ保有者の長期管理や生活指導、排泄障害による皮膚障害への対応や予防、排泄管理のサポートも行っています。病棟に所属せず、院内で横断的な活動をしていますので、電話 (内線3270) をいただければ、病棟へも外来へもおうかがいしています。

スキンケア・排泄のケアは基本的なニーズで、生活に密着しており、QOLに大きく関わる部分となります。より良い生活環境や入院環境を整えて行けるようなサポートを目指して、日々活動をしています。

## 新生児集中ケア認定看護師



橋本 綾 (NICU)

新生児集中ケア認定看護師は急性かつ重篤な状態にある新生児に対し、後障害を予防し母体外での身体的・生理学的安定を図るためのケアや養育行動障害の防止のための親子関係形成の支援などのための知識と技術を持つ認定看護師です。

全国的な傾向として低出生体重児の出生が増加していますが、現場でも同じ傾向にあります。また、在胎週数が22週から24週の早産児が入院することも以前より増えてきています。このような児は状態が急変しやすく、22週で出生した児は単純に出産予定日まで考えても4か月以上の長期間、新生児集中治療部で過ごすこととなります。児が順調に成長発達できるかどうかは急性期の経過にかかっており、新生児集中治療部の看護師は児への細やかな観察が求められます。急性かつ重篤な状態にある新生児においても身体的および社会的障害を最小限にとどめ、家族の一員として1日でも早く家庭で過ごせることを目標に日々の看護実践を行っています。

## がん化学療法看護認定看護師



木村 道子 (腫瘍センター)

私は平成19年にがん化学療法看護認定看護師の認定を受け、現在は外来化学療法室で勤務し、主な活動として、がん化学療法看護の実践を行っています。近年では、がん罹患者の増加や新規抗がん剤の開発が進むなど、治療だけではなく、その看護も多種多様化していることを実感し、私自身も試行錯誤の中で自分らしいがん化学療法看護が実施できるように、日々、奮闘しています。

みなさんも、がん化学療法看護を実践する中で悩んだ時には (例えば、抗がん剤の安全な取り扱いや副作用対策、患者や家族のセルフケア能力向上の援助、意思決定の援助など)、ご連絡ください (内線3305)。一緒に問題解決の糸口を見出し、より良いがん化学療法看護が実践できればと思っています。

## 医学部看護学科第3回卒業研究発表会開催



(看護学科)

去る平成21年12月22日、看護学科校舎にて看護学科4回生による卒業研究発表が開催され、基礎、成人、老年、母性・助産、小児、地域看護学の7領域から88題、91名がポスター発表を行いました。テーマは、臨地実習での経験から見いだしたものが多く、実習施設に研究協力をお願いしたものも年々増えてきています。自分たちの些細な気付きから文献を調べ、

データを取り論理的に文章を組み立てて行く作業は、学生たちの思考をさらに深める事となりました。

各会場では同級生はもちろんのこと、下級生や関連施設からもご出席頂き活発な意見交換が行われ、充実した研究発表となりました。

## 公開講座「くらしと医学」を開催しました



(総務課)

平成21年度後期の公開講座を、2月27日(土)に奈良市の県文化会館国際ホールにおいて開催いたしました。

平成6年度から始まった公開講座も、今回で24回目の開催となり、今回の会場である文化会館での開催は16回目となりました。

当日は、約750名と多数の聴講者を得て3つの講座が開催されました。まず、吉岡学長の挨拶の後、座長の長谷川正俊放射線腫瘍医学教授の司会により、大西武雄生物学教授から「がん死を避ける」と題して、続いて、大西武雄教授の司会により、吉栖正典薬理学教授から「『サプリメント』のむ?のまない?」と題して、古家仁麻酔科学教授の司会により上野聡神経内科学教授から「足のしびれ、力が入らない、歩きにくい」と題して講義が行われ、それぞれ活発な質疑応答がなされました。

公開講座は、本学の地域貢献の一環として、「くらしと医学」をテーマに、広く県民の皆さんに、医学・看護学の知識を解りやすく解説し、日々の暮らしに役立てていただくことを目的として開催しています。

今年度は、9月11日(土) 橿原文化会館、平成23年2月19日(土) 県文化会館において開催する予定ですので、ぜひご聴講くださるようお願いいたします。



吉岡学長挨拶



大西教授



吉栖教授



上野教授

## 厳橿会館において開催された 第20回日本病態生理学会大会成功裏に終わる!

第20回日本病態生理学会大会会長 高木 都

(生理学第二講座)



御子柴克彦先生の特別講演



懇親会

1月22日～24日、厳橿会館において第20回日本病態生理学会大会が開催されました。22日は、理事会と第1回活性化委員会主催サテライトセミナー(若手仕様)が行われ、23～24日には細見記念特別講演、奨励賞候補口演、市民公開講座、教育講演、一般講演、ランチョンセミナーが行われました。御子柴克彦先生の特別講演「中枢神経系の発生と分化—IP3 受容体の発見とその機能の解明」は圧巻であり、参加者は一様に大いなる刺激を受けました。教育講演はピッツバーグ大学の吉村直樹教授で、[Ion channel mechanisms of afferent hyperexcitability in bladder dysfunction]で膀胱機能障害とIon channel の変化をわかりやすくまとめて講演していただき、参加者は深く感銘を受けました。2日間の学会プログラムでは、本学からも一般演題の発表や座長など、多くの方々に参加していただき、活発な討論が行われました。市民公開講座では、健生会土庫病院大腸肛門センターの稲次直樹先生に「排便の仕組みと便からわかる病気の色々」と題して御講演いただき、市民は勿論、学会会員、本学教職員、医療関係者、患者さんを含む128名の参加者がありました。最後に、厳橿会館大ホールで懇親会を催しました。120名の参加を得る学会を開催できたことを同窓会に感謝します。



承認された規程、委員会名簿等については、随時、ホームページにて公開しています。

学内ホームページURL（閲覧は学内のみ可能）

<http://top.narmed-u.ac.jp/> → 「規程・名簿タブ」

※は、公開ホームページに掲載

<http://www.narmed-u.ac.jp/aff/johokoukai/>

（総務課）

## 役員会及び教育研究審議会の報告

### 第34回 役員会（1月6日）

- 1 副学長選考要領等を承認し、教育研究審議会で審議
- 2 平成22年度 年度計画（案）について意見聴取
- 3 利益相反管理規程に基づくセーフ・ハーバー・ルール及び自己申告書の改正を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 4 「医の倫理委員会」と「IRB（臨床研究審査）委員会」の業務分担を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 5 ゲストハウス使用規程の一部改正を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 6 「医学部医学科同窓会における海外留学助成金厳重学術奨励賞候補者の選考について」の一部改正を承認し、次回教育研究審議会で審議

### 第14回 教育研究審議会（1月7日）

- 1 教員の退職を承認
- 2 非常勤講師の選考基準を承認、1月7日以降の選考から適用
- 3 平成22年度年度計画（案）について意見聴取
- 4 部局長選考のスケジュールを承認
- 5 「利益相反管理規程に基づくセーフ・ハーバー・ルール」及び「利益相反行為に関する自己申告書」の一部改正を承認、1月7日付で施行
- 6 「医の倫理委員会」と「IRB（臨床研究審査）委員会」の業務分担を承認
- 7 ゲストハウス使用規程の一部改正を承認し、1月7日付で施行
- 8 「医学部医学科同窓会における海外留学助成金厳重学術奨励賞候補者の選考について」の一部改正を承認し、1月7日付で施行
- 9 寄附講座設置・管理等に関する基本方針を報告
- 10 チェンマイ大学からの研究員受入及び本学からの派遣を報告
- 11 医学科推薦選抜の出願状況を報告
- 12 平成24年度大学入試センター試験での理科学科の取扱いを報告
- 13 文部科学省特別教育研究費について、臨床研修センターへコーディネーターが派遣される旨報告

### 第35回 役員会（1月13日）

- 1 部局長選考（案）を承認し、1月13日付で推薦資格者あて通知
- 2 平成21年度インドネシア看護師候補者2名の受入を報告

### 第36回 役員会（1月20日）

- 1 国の予算措置を条件として、附属病院腫瘍センターへの特任助教を配置することを承認
- 2 財務状況（11月末現在）を報告
- 3 新棟各フロア配置計画案を承認

### 第37回 役員会（1月27日）

- 1 看護学科教員の学内異動を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 2 副学長選考の候補者を承認し、公示を決定
- 3 図書館長、研究部長、看護学科長の候補者推薦要領を承認し、次回教授会で審議
- 4 医師の処遇改善について検討、継続審議
- 5 医員の大学院入学を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 6 外国人留学生の授業料等の免除制度を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 7 看護職員採用試験の合格者を決定

### 第38回 役員会（2月3日）

- 1 副学長（医学部長、附属病院長）を決定
- 2 教員の人事を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 3 教員の海外留学（期間変更）を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 4 各委員会委員の改選について、委員の選考を学長に一任することを承認し、次回教育研究審議会で審議
- 5 大学院博士課程早期修了の認定基準を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 6 財務状況（12月末現在）を報告

### 第15回 教育研究審議会（2月4日）

- 1 国の予算措置を条件として、附属病院腫瘍センターへの特任教員を配置することを承認
- 2 教員の人事を承認
- 3 看護学科教員の附属病院への学内異動を承認
- 4 精神医学分野助成の海外留学（4ヶ月間の期間延長）を承認
- 5 図書館長、研究部長、看護学科長の候補者推薦要領を承認し、次回教授会へ提案
- 6 平成22年度 年度計画（案）について意見聴取
- 7 各種委員会委員の改選について、委員選考の学長一任を承認
- 8 大学院の充実を図るため、医員の大学院入学を承認、平成22年度医学研究科（博士課程）第2次募集から適用
- 9 同じく、大学院博士課程早期終了の認定基準を承認し、2月4日付で施行
- 10 チェンマイ大学からの学生受入及び本学からの派遣等を報告
- 11 副学長（医学部長・附属病院長）の決定を報告
- 12 電子ジャーナルの充実を報告、活用依頼

### 第39回 役員会（2月10日）

- 1 精神保健福祉士、社会福祉士、及び、臨床心理士の募集を決定
- 2 平成22年度予算案を審議、継続協議

### 第40回 役員会（2月19日）

- 1 図書館長、研究部長、看護学科長の候補者を報告
- 2 各教育部長推薦要領を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 3 退職手当規程（役員・職員）の一部改正を決定、2月19日付で施行
- 4 寄附講座に対する寄附金に係る間接費の取扱を承認し、教育研究審議会で審議

### 第16回 教育研究審議会（2月23日）

- 1 附属図書館長・研究部長・看護学科長を承認し、役員会へ報告
- 2 各教育部長の各教育協議会への推薦依頼を承認

### 第41回 役員会（2月24日）

- 1 附属図書館長、研究部長、及び、看護学科長を決定

- 2 大学院医学研究科修士課程（看護学）設置スケジュール（案）を承認し、次回教育研究審議会で審議
- 3 附属病院の理念・基本方針（案）を承認し、3月病院運営協議会で審議
- 4 看護職員採用試験の合格者を決定

### 第42回 役員会（3月3日）

- 1 臨床教授等の選考について報告、教育研究審議会で審議
- 2 教員の海外留学（期間延長）を承認、教育研究審議会で審議
- 3 教員人事を承認、教育研究審議会で審議
- 4 特任教員人事（更新等）を承認、教育研究審議会で審議
- 5 特任教員の配置を承認、教育研究審議会で審議
- 6 寄附講座（血圧制御学）教員の選任を承認、教育研究審議会で審議
- 7 平成22年度年度計画（案）を審議、教育研究審議会で審議
- 8 平成22年度予算（案）を審議、教育研究審議会で審議
- 9 学位規則の一部改正を承認、教育研究審議会で審議
- 10 医の倫理委員会規程の一部改正を承認、教育研究審議会で審議
- 11 ルール大学との学生の交流に関する協定の締結を承認、教育研究審議会で審議
- 12 中央標本室委員会委員の改選について、委員の選考等を学長に一任することを承認、教育研究審議会で審議
- 13 病院教授制度について審議、教育研究審議会で審議
- 14 学長賞及び大学院医学研究科博士課程研究奨励賞の授賞者を報告
- 15 パースセンター開設準備に伴う助産師の採用を決定

### 第17回 教育研究審議会（3月4日）

- 1 寄附講座に対する寄附金に係る間接費の取扱を承認
- 2 大学院医学研究科修士課程（看護学）設置スケジュール（案）を承認、
- 3 臨床教授等の選考を決定（新規7名、更新84名、計91名）
- 4 精神医学救急・救急救の海外留学（1年間の期間延長）を承認
- 5 教員の人事を承認
- 6 特任教員（「住居医学」、「がんプロフェッショナル養成プラン」及び「がん専門医臨床研修モデル事業」）の人事（更新等）を承認
- 7 特任教員の配置（放射線腫瘍医学講座）を承認、教授選考会議へ提案
- 8 中央標本室委員会委員の改選について、委員の選考等を学長に一任することを承認

- 9 寄附講座（血圧制御学）教員の選任を承認
- 10 医の倫理委員会規程の一部改正を承認し、4月1日付で施行
- 11 学位規則の一部改正を承認し、3月4日付で施行
- 12 ルール大学との学生の交流に関する協定の締結を承認
- 13 平成22年度年度計画（案）を承認、経営審議会に提案
- 14 平成22年度予算（案）を承認、経営審議会に提案
- 15 病院教授制度について審議、教授会に提案
- 16 学長賞及び大学院医学研究科博士課程研究奨励賞の受賞者を報告

### 第43回 役員会（3月10日）

- 1 特任教員の選考について審議、教育研究審議会で報告
- 2 認定看護師、専門看護師に対する手当の支給を決定、4月1日から実施
- 3 平成21年度決算見込を報告
- 4 平成22年度役員会等の開催日程を報告

### 第44回 役員会（3月17日）

- 1 名誉教授の称号授与を承認、教育研究審議会で審議
- 2 客員教授の更新を承認、教育研究審議会で審議
- 3 教員人事を承認、教育研究審議会で審議
- 4 教員の海外留学（期間延長）を承認、次回教育研究審議会で審議
- 5 特別研究員（ポスドク）の採用を承認、教育研究審議会で審議
- 6 看護学科教員の医学科への配置替えを承認、教育研究審議会で審議
- 7 （仮称）病院教授制度について、規程（案）として整理し、教育研究審議会で審議
- 8 （仮称）診療部長手当について、概略として整理し、教育研究審議会で審議
- 9 短期借入金の年度繰越の知事への届出を承認
- 10 健康管理センター及び治験センターの設置を承認
- 11 附属病院規程の一部改正を承認、4月1日付で施行
- 12 兼業審査委員会委員はじめ6件の委員会委員の選任を報告
- 13 平成22年度年度計画を報告

### 第18回 教育研究審議会（3月18日）

- 1 部局長（各教育部長）の選考を承認、役員会へ報告
- 2 名誉教授の称号授与を承認
- 3 内分泌・代謝内科客員教授岡本新悟氏の更新を承認
- 4 4月1日付け教員の人事を承認
- 5 第一内科学竹田助成の海外留学（1年間の期間延長）を承認
- 6 特別研究員（ポスドク）の採用について、住居医学研究費の採択を条件としてを承認
- 7 看護学科教員の医学科への配置替えについて、一般教育協議会で意見聴取
- 8 放射線腫瘍医学講座特任教員として生物学大西教授の選任を報告
- 9 兼業審査委員会他5件の委員会委員の選任を報告
- 10 平成22年度年度計画を報告
- 11 平成22年度決算見込を報告
- 12 平成22年度教育研究審議会等の開催日程を報告

### 第45回 役員会（3月18日）

- 1 部局長（一般・基礎・臨床・看護教育部長）を決定
- 2 （仮称）病院教授規程（案）を承認、4月1日付で施行
- 3 （仮称）診療業務手当（案）の骨子を承認、教授会議で説明

### 第46回 役員会（3月24日）

- 1 臨床検査技師、臨床工学技士の採用試験の実施を決定
- 2 看護職員採用試験の合格者を決定

### 第47回 役員会（3月31日）

- 1 給与規程等の一部改正を決定、4月1日付で施行



## — English Chat Lounge (英会話ラウンジ) の御案内 —

授業とは違って、気楽に英会話を楽しんでみませんか？

アメリカの文化、習慣、医療など様々な話題について、英語で雑談をしながらリスニングやスピーキングの力を伸ばしたい人は是非、お越し下さい。

日時：月曜と金曜の16:30～19:30

(年間の日程表は4月末まで学務課のカウンターに置いてあります)

場所：一般教育校舎2階 ドイツ語教授室

対象：教員、職員、学生

(ネームカードを着用してください)

参加自由ですので、御自分の都合のよい時間帯にどうぞ。

無料です！



講師 Dru Gustafson  
(ドゥルー グスタフソン)  
本学非常勤講師  
米国カリフォルニア州出身  
英会話講師の経験豊富

(おくやみ)

名誉教授・元学長 増原 建二 先生(86歳)が、平成22年4月9日ご逝去されました。謹んでご報告申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。

### 下ツ道

(編集後記)

今春は六名もの教授が退任されました。永年勤められた先生方の退任は大変寂しいものですが、新たな門出に際し更なる飛躍と今後のご活躍をお祈りいたします。

卒業生の皆さんは、附属病院以外の施設で社会人として働き始めることを選んだ方も多そうですね。少し残念ですが、それぞれの場所で踏ん張り立派な医師・看護師になられることを期待しています。これからは多くの卒業生が志望するよう奈良医大をもっと魅力ある職場へと盛り上げていきたいですね。

掲載希望の記事等については、各編集委員までお知らせください。

○今村 知明(健康政策医学)  
高橋 昭久(生物物理学)  
笹平 智則(分子病理学)  
植村 正人(内科学第三)  
坂東 春美(地域看護学)  
錦 三恵子(看護部)  
岡 眞啓(研究推進課)  
鷹本 純史(学務課)  
奥田 稔(病院管理課)  
鷹野 覚(総務課)  
(○印は編集委員長)